

シード演奏で合唱コンクール関東大会へ進出！【富士通川崎合唱団】



無事演奏終了（神奈川県立音楽堂エントランスにて）

9月2日(日)、富士通川崎合唱団は、神奈川県立音楽堂において開催された「第55回 神奈川県合唱コンクール」に出場しました。

【合唱コンクールとは】

全日本合唱連盟が主催し年に一度開催されるイベントで、いくつかの部門(大学部門、一般部門など。私たちの場合は職場部門です)ごとに演奏を競い合います。県大会から始まり、支部大会(私たちの場合には関東大会となります)で勝ち残れば、全国大会に出場することができます。審査結果は金／銀／銅／奨励賞／賞なしの5つに分類されます。

今年度の私たちの演奏内容は次の通りです。

【演奏内容】

■ 曲目：

[課題曲]

〈G1〉Ego sum panis vivus (私は命あるパンである) 作曲: Giovanni Pierluigi da Palestrina

[自由曲]

Ave Maria III (幸いあれ マリアさま 3) 作曲: Rihards Dubra

Cantate Domino (主に向かって歌え) 作曲: Vytautas Miškinis

■ 指揮: 加藤雅子

【成績】

昨年度全日本合唱コンクール全国大会出場のため本審査対象外

★シード賞(関東大会推薦状付)受賞

【当日の様子】



当日練習。気合が入ります。於：富士通ユニオンビル

雨が降ったりやんだりの天気の中でしたが、私たちは前日・当日練習も予定通り行うことができ、コンクール本番を迎えました。神奈川県合唱コンクールは、2日間にわたって開催され、1日目は中学校、高校部門の審査、2日目が大学・職場・一般部門の審査とシード団体演奏です。昨年度も全国大会に出場している当団はシード団体として演奏を披露しました。

課題曲は、柔らかく美しい旋律の曲です。ソプラノ・アルト・テナー・ベースがそれぞれのタイミングで言葉を繋ぎ、全体の大きな流れを作ります。自由曲1曲目のAe Marialは、女性三声による滔々としたお祈りから始まるどこか民族音楽的な部分から、感動的な西洋音楽へとつながる面白い曲です。Cantate Dominoは、軽快な主題と、幻想的に音が重なりあう中間部との対比が魅力です。最後は盛り上がり、華やかに終わります。

今年は6月2日に当団の演奏会があり、自由曲の2曲はその時にも演奏しました。しかし、コンクールに向け、和音進行や単語の発音等、細かいところを1つ1つ再確認しながら練習を重ねてきました。

今回は、課題曲・自由曲共にラテン語の宗教曲を取り上げ、練習では、特に曲の背景・雰囲気をつ団員間で共有する事に取り組んできました。そのため、本番では雰囲気のある良い演奏ができたのではないのでしょうか。



本番開始！

次のステージは、10月14日(日)に 甲府のコラニー文化ホール(山梨県民文化ホール)で行われる関東大会です。職場部門のライバルとしのぎを削り全国大会へ進めるよう、さらに研鑽を積み、苦手な部分を克服して本番に臨みたいと思います。来年度からの部門の再編により、毎年私たちがエントリーしていた「職場部門」は他部門と統合される予定で、職場部門単独としてのコンクール出場は今年が最後です。そのため、今年は例年以上に奮い立っています。折しも芸術の秋、同じ富士通の仲間としての応援も兼ね、是非聞きに来てください！



シード賞の賞状を受け取る富士団長



賞状と当日のプログラム

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団 (テナー) 小松隆央】